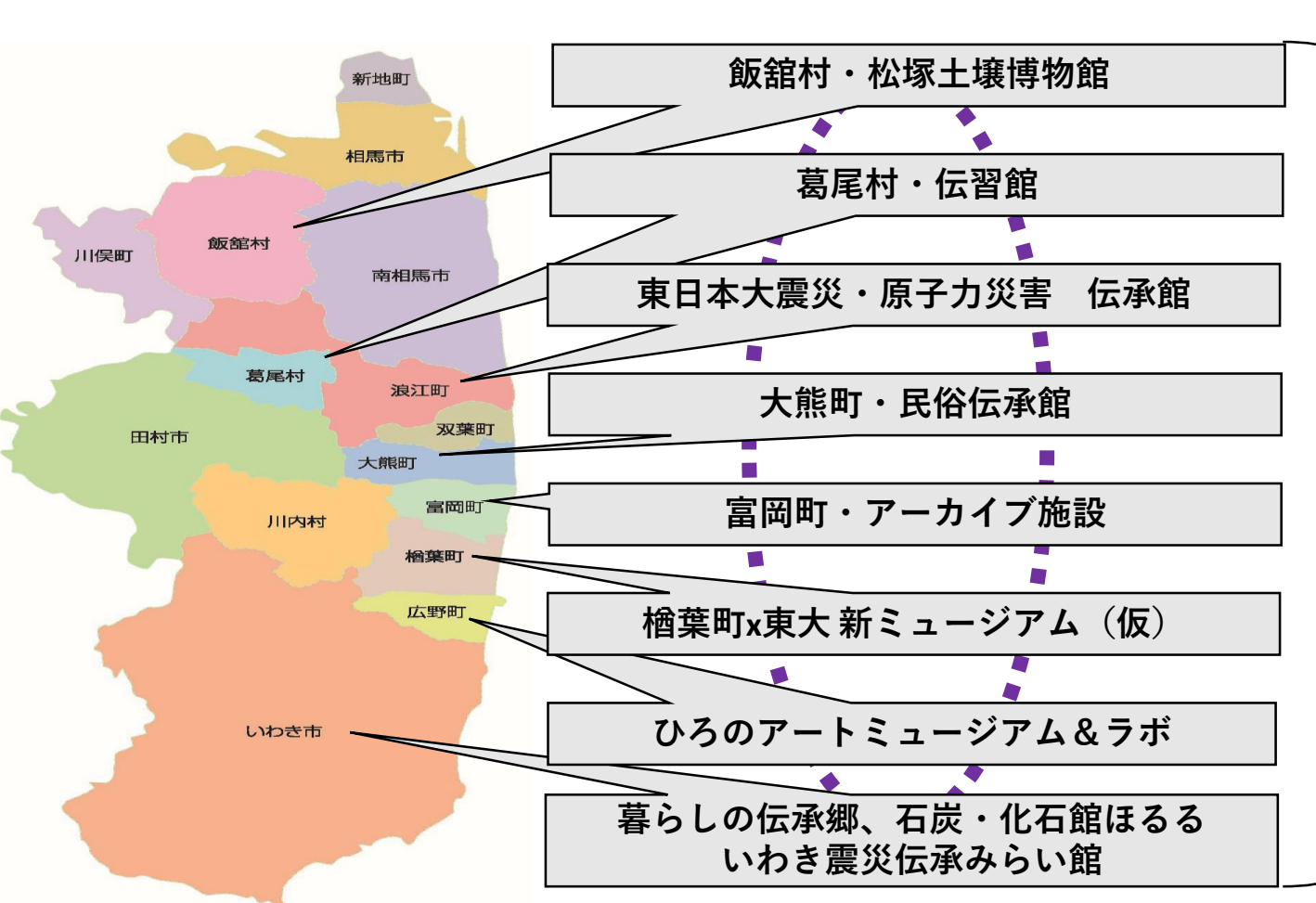


# 福島復興知学の深化と展開 ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

## 事業概要

2018-2020年度の復興知事業を通じて、我々は学内ネットワーク (<https://utfca.ric.u-tokyo.ac.jp/>) と浜通り東大拠点ネットワークを構築した。さらに2022年3月9日に福島県と東京大学との包括的な連携協定を締結した。本事業では、上記の成果を深化させることで、福島の創造的復興に貢献できる人材（重層的なスキル・知識を獲得した「ミルフィーユ型人材」）を浜通り内外に育成する。また、ミュージアム連携事業等を推進することで、他の復興知事業や市町村との連携を強化して、事業を面的に展開・発展させる。本事業のHP (<http://fukkouchi-fukushima.jp/>) を開設し、広く情報公開している。

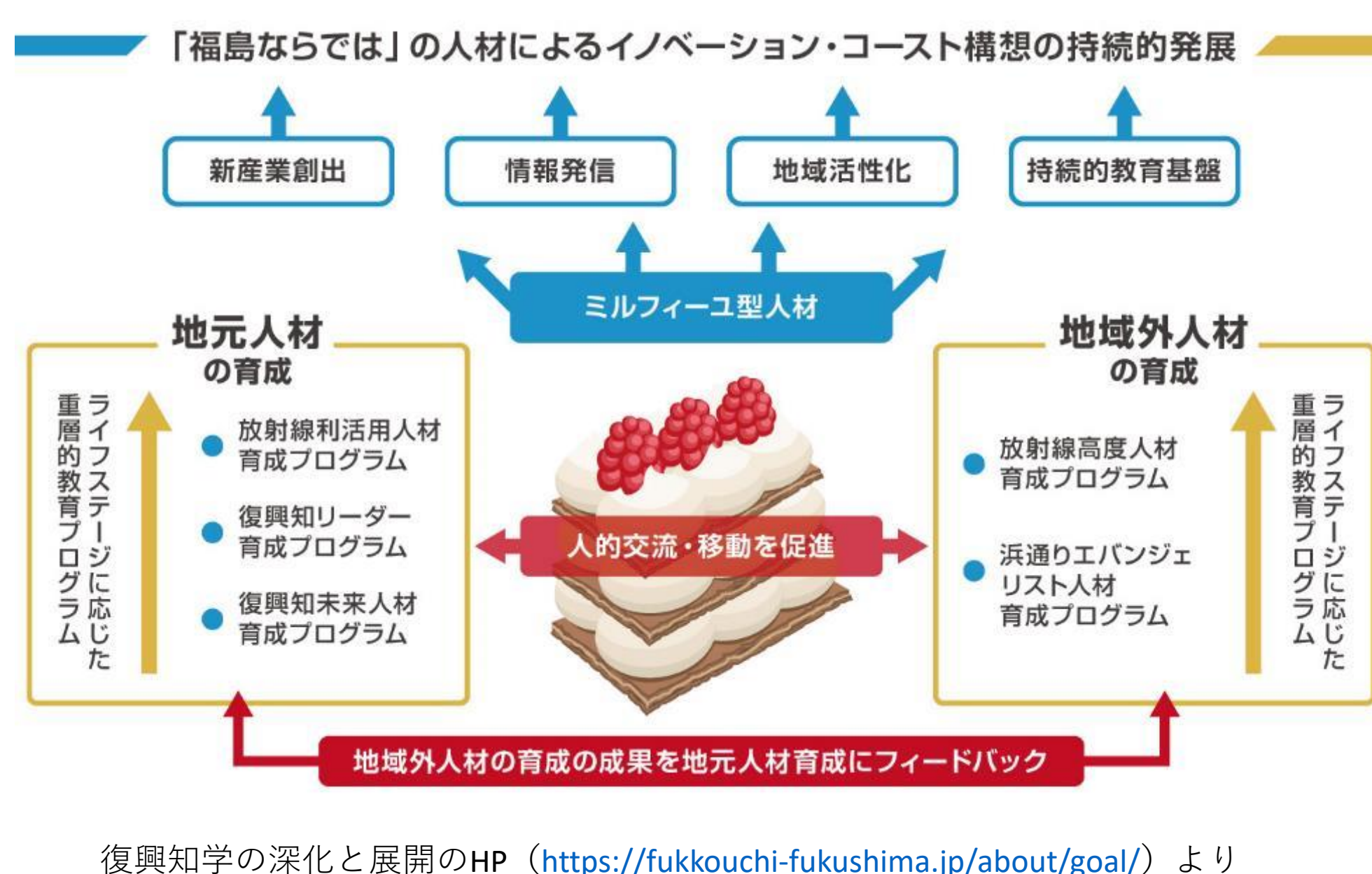
## 市町村との連携体制の構築



## ミュージアム連携事業 (ミルフィーユ・ロード)

浜通りに所在する多様な資料館等が連携し、地域の文化的活動・教育的活動の依り代・ゆりかごととして機能することを旨とした取り組み。自治体間の「架け橋」として機能。  
 具体的には、浜通り広域に所在する施設等（左図参照）の連携を実現し、そのうえで復興知事業に参加する大学等（東京大学、早稲田大学、福島高専など）も連携して、アート&サイエンスワークショップ、科学教室、市民講演会、大学生等のフィールド実習、などを実施する。  
 活動に地元の自治体と企業も巻き込むことで、自治体の広報戦略・観光資源開発、企業によるデジタルコンテンツ開発にも貢献する。これらの活動を重層的に実施することで「創造的復興」の基盤とする。

## 5年間の人材育成目標



復興知学の深化と展開のHP (<https://fukkouchi-fukushima.jp/about/goal/>) より

## 【地域の創造的復興を担う未来人材の育成（地元人材の育成）】

ライフステージに応じた多層的教育を経て真の復興を担える多様な人材を育成する。

### 1. 復興知未来人材育成プログラム

連携する市町村の小中学生を対象に、出前授業や科学教室を通じて、復興知と大学知を有機的に学んだ地元の若年人材を育成するプログラムを開発して実施する。

### 2. 復興知リーダー育成プログラム

自治体職員向け、企業向け、一般市民向けに地域内のリーダー育成プログラムを実施する。

### 3. 放射線利活用人材の育成プログラム

福島高専の学生および地元企業の社員を対象に、放射線利用に関する国家資格である放射線取扱主任者の資格取得をサポートする。

## 【世界的視野で福島の発展を支える人材の育成（地域外人材の育成）】

浜通りでの「まなび」をもとに学術文化を推進し、世界に情報発信できる人材を育成する。

### 1. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

東京大学等の大学生と大学院生を対象に、福島に関する正しい情報を理解し、国内外に情報発信できる人材を育成する。

### 2. 放射線利活用人材の育成プログラム

福島高専の本科と専攻科、東京大学等の大学生と大学院生を対象に、放射線に関する正しい知識と技能を有し、国内外に情報発信できる人材を育成する。

## 今年度までの活動内容と課題 【地域の創造的復興を担う未来人材の育成】

### 1. 復興知未来人材育成プログラム

#### ◇出前授業・ミュージアム事業の動画公開

小中学生向けのドローンプログラミング教室や、葛尾村の郷土文化保存伝習館の文化財の電子化などの動画を作成し、本事業HPで公開した (<https://fukkouchi-fukushima.jp/activities/>)。

いわき市内の小学校の児童を対象に、再生可能エネルギーを題材にしたおもちゃ（レゴブロックなど）や手回し発電機・足漕ぎ自転車・火起こし体験などを通じたエネルギー学習を実施した（累計約230名が参加、2022年度は5回開催済み）

#### ◇大学生と地元小中学生との交流会

東京大学の学生、福島高専の学生、地元の小中学生を対象とした交流会を広野町長畑地区集会所にて予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、秋以降に予定変更。

#### ◇科学教室

東京理科大学学生による小中学生向けの科学体験イベントを8月11日に実施（楡葉町、広野町）。東京大学生による小中学生向けのサイエンス教室を8月22日、23日（広野町、楡葉町）に開催した。アンモナイトや三葉虫などの化石のレプリカを作ったり、電気の仕組みを実験で学ぶなど、工作を通して科学を楽しく学んだ。

### 2. 復興知リーダー育成プログラム

#### ◇「広野町ふるさと創生大学」2022年7月30日、8月27日

東京大学アイトープ総合センターの裏山博特任研究員が「聞いて得る眠りの話 毎日健康で生き生き暮らすために」と題して広野町公民館で講演を行った。一般市民約50名が参加した。秋以降にも様々な市民講演会を計画。

#### ◇復興知市民講演会

新型コロナウイルスワクチンを題材にしたメディアリテラシーについての講演会の様子を動画として公開した。

### 3. 放射線利活用人材の育成プログラム

#### ◇実務的な放射線教育プログラム

福島高専および地元企業の社員を対象にして、放射線利用に関する国家資格である放射線取扱主任者の資格取得をサポートする講義をオンラインで実施した（4回開催済み）。東京大学で先端的な研究を推進し、大学院生を教育中。

#### ◇放射化学会の講演会

放射化学会が主催する『放射化学が切り拓く人類の夢と安心安全』をテーマにした講演会を9月10日に開催する。同時に小惑星探査機はやぶさ1号・2号の模型展示も企画している。



## 【世界的視野で福島の発展を支える人材の育成】

### 1. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

#### 「国際ワークショップ-これまでの10年と未来の復興を考える-」

2021年12月7日

福島復興に関するオンライン国際ワークショップを実施した。『Made in Fukushima』の著書であるMETERグループのコーリン・キャンベル教授とクリスチャン・ハーテル氏をゲストに迎え、福島高専の芥川教授による講演や学生発表等の後、福島の過去・現在・未来について参加者で議論を行った。すべての内容は日英同時通訳で行われ、53名が参加し、活発に討論等をおこなった。

#### 「福島復興知学講義」2022年4月7日～7月14日

福島復興に関する体系的講義を東京大学教養学部生に実施した（13名の履修）。



国際ワークショップのチラシと、オンラインでの開催の様子

#### 「福島復興知フィールド学習」2022年8月17～19日

東京大学の学生10名と福島高専の学生2名、磐城高校の高校生2名が富岡町・大熊町・双葉町・飯館村で震災に関するフィールド学習を実施した。福島第一原子力発電所・廃炉資料館・中間貯蔵施設・帰還困難区域・原子力災害伝承館の見学、被災語り部の方からの聞き取り、飯館村における農業体験等に取り組んだ。本学習の成果を高校生・高専生が9月17日に学会発表予定。

第2回のフィールド学習を11月19日～21日に予定している。主要施設の見学に加え、飯館村での復興農業体験を主にした体験型学習となる予定である。



大熊町中間貯蔵施設の見学、東京電力廃炉資料館の見学、語り部の方から当時の様子を学ぶ

本学習では福島の魅力や課題などについて、事前事後のアンケート調査を実施した。ここでは事後アンケートを一部紹介する。尚、アンケート内容の発表については全回答者の同意を得ている。

福島の人人々は「福島のために」活動をしているのではなく、「自分がやりたいから」福島に戻って活動をしているという声を多く聞いたのがよかったです。支援-被災の構造ではなく、自分のやりたいことを福島で主体的に取り組んでみたいと思いました。

福島の完全な復興はまだ遠いと感じました。特に、夜ノ森駅のまわりの人のいない景色が忘れられません。ただ、復興に向けて懸命に行動し、少しでも近づこうとする沢山の人達と交流することができたのがとても良かったです。

感情的に何かを拒絶する（例えば処理水問題や汚染土壌の最終処分場など）のではなく、自分でそれらの問題について調べ、福島の現状を理解し、協力することが肝要であると感じた。



### 2. 放射線高度活用人材の育成プログラム

地元企業約120社で組織される福島高専協力会参加企業に対して、放射線科学分野をはじめとする研究・開発の過程で必要とされる実験器具などのニッチな装置作成のセミナーを開催し、商談会に展開する準備を行った。

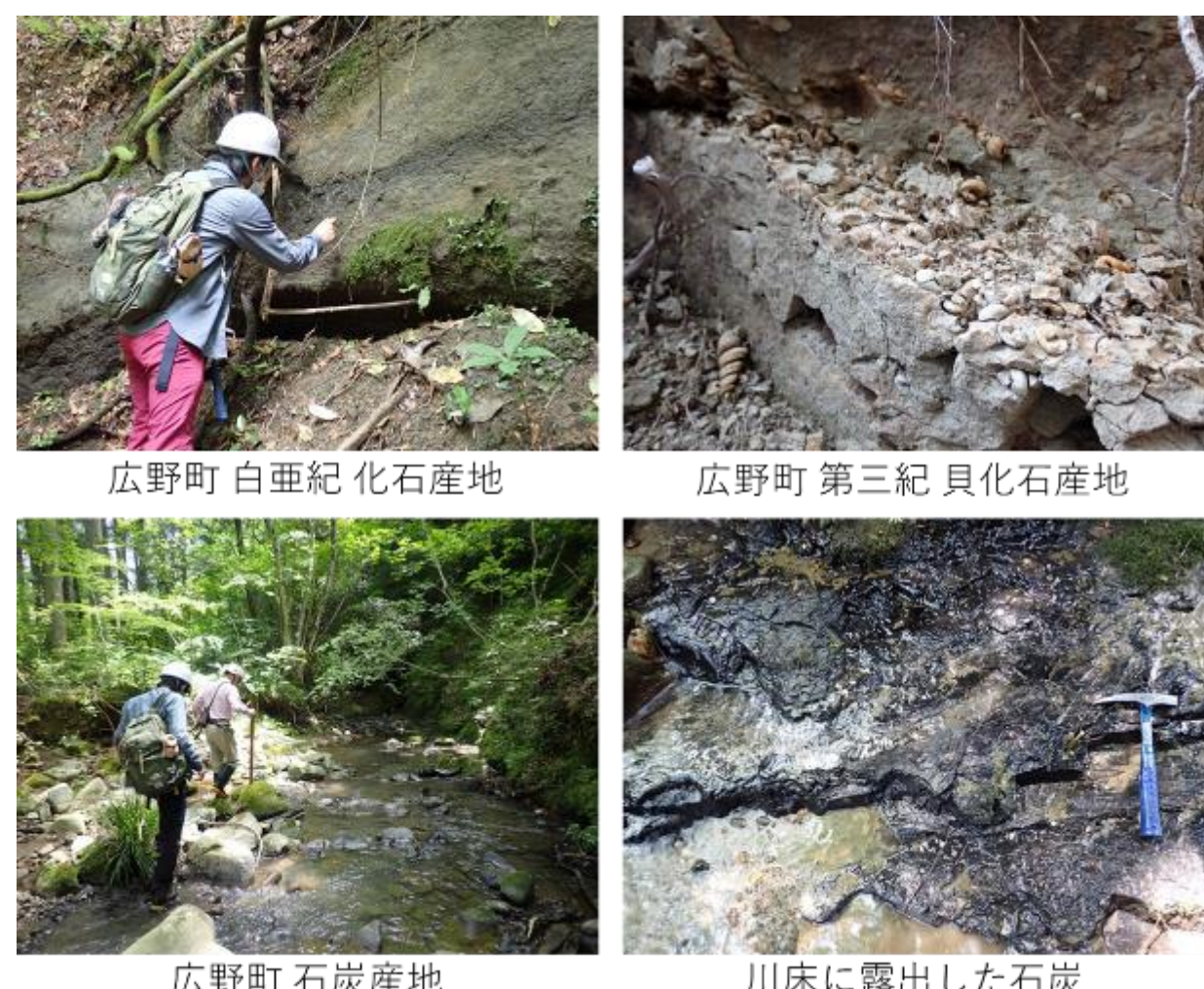
## 3年目の事業内容及び取り組みの方向性

### 1. 復興知未来人材育成プログラム

広野町において、化石発掘ワークショップを2023度から実施予定である。2022年度は教育委員会と合同予備調査（右写真）をおこなった。

広野町は昭和61年に複数の恐竜の化石が発見され、以来、化石の町として注目を集めている。ワニ類やアンモナイトなどの海生生物の化石なども発見されており、これらの広野町ならではの自然資源を利用した未来人材育成プログラムを実施することを計画している。

具体的には、広野町教育委員会と協力して、出前授業や町民を対象とした化石発掘ワークショップなどを開催することを検討し、大学における高度な教育研究と地元への教育貢献との両立を目指している。



### 2. 復興知リーダー育成プログラム

楡葉町コミュニティセンター1階に楡葉町と東大博物館との共同展示「ならば新ミュージアム(仮称)」を開館する予定である。このミュージアムを活用し、ミュージアム連携構想を題材とした自治体職員の教育プログラム（地域の魅力発見、地域の公報に関するプログラム、民間企業と協力したプログラム）を実施中であるが、2023年度も引き続き実施する。

また、アート&サイエンス事業として、放射線など科学技術に対する理解を深めることを念頭に、アートをつかって先端科学に触れ、先端科学を芸術的に表現する活動も地元と連携して行う。事業成果を展示作品として、楡葉町・広野町で開催されるアートフェスティバルに出品することを検討している。



楡葉町と協力してデザインしている共同展示のイメージ図。左右に東京大学総合研究博物館の資料を配したデザイン。